

校長室だより

# 共学共高

第  
36  
号

令和4年11月17日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

## ～修学旅行特集その4～

修学旅行4日目である。この日も4つのコースに分かれての体験学習である。私は、K先生と共に「西表島・油布島2島周遊コース」の引率である。生徒は37名と、最も参加人数の多いコースであった。

朝食後にホテルから徒歩で石垣港へ向かう。西表島の大原港までは、約40分間のグループである。到着後、まずは仲間川マングローブクルーズの体験である。小型船に乗って、河口から上流へと向かい、再び河口へ戻ってくる約60分間の乗船体験である。御存知のようにマングローブは海水と淡水の混ざった水で生息できる植物である。たこ足のような根を持ったものもあれば、すらすらとまっすぐに伸びた根を持つものもある。雨上がりで水は濁っていたが、ジャングルの中を流れる川を巡るような感覚に陥る。私たちの船は幸いなことに、途中で特別天然記念物に指定されているカンムリワシに出会うことができた。マングローブの木の枝にとまっていたのである。何度もここを訪れているベテランの添乗員さんでさえも、初めて出会ったとのことだから、相当な幸運に恵まれたと言えよう。途中でカヌー体験をしている白梅生たちに出会ったので、お互いに思い切り手を振った。





下船後は、バスに乗車して、島内の美原へと向かう。そこから3台の水牛車に分乗して、油布島へと渡るのである。水牛は、自分の担当者（調教担当）とそれ以外の人間とを明確に認識しているらしい。したがって、担当者のいないところでむやみに水牛に近づいたり、触れたりしてはいけないとの注意を受ける。水牛にもさまざまな表情があり、個性があることが担当者のお話から伺える。生徒たちも水牛車を楽しんでいる。





約 20 分の水牛車体験を終え、油布島へ上陸する。レストランで昼食をいただいた後、各自で島内観光である。私は一人で回った。亜熱帯植物やチョウ、マングローブ遊歩道、海岸、小中学校跡地など、あっという間の 30 分間であった。もしかしたら、もう一度来島することがないかもしれないと思い、水牛の家系図や島の歴史などの展示物にも目を通した。雨が降る中での散策となったが、貴重な体験であった。再集合して、再び水牛車に乗り、西表島へと戻る。その後はバスで大原港へ移動し、船で石垣港へと戻る。途中で波が高いのか、何度か船がジャンプするような場面があった。私もそうだが、うとうとする生徒も散見された。旅の疲れがたまってきたのかもしれない。このコースは他のコースに比べて、早い時間にホテルへ着くこととなったので、ゆっくりと身体を休めることができたであろう。



修学旅行 5 日目は、東京へ帰る日である。午前中はホテル近隣のユーグレナモールにおいてショッピングである。どのお店にも本校の生徒や他校の修学旅行生がいて、賑わっていた。生徒から、「ハブの油を売っていましたよ。」と声を掛けられたが、私は蛇が苦手なので、「とても苦手だから・・・」と応じた。ハブ酒なら何とか対応できるのだけれども。(笑) 生徒たちは大きなバッグにたくさんのお土産を詰め込んで、ホテルへ戻ってきた。その後、バスで石垣空港へ向かい、羽田空港まで直行便で帰京したのである。

行程中、体調不良となった生徒もいたが、教職員・旅行者・保護者・看護師のチームプレーにより、適切に対応することができた。参加生徒全員を保護者の下へお返しすることができ、安堵している。

私にとっても、5年ぶりの修学旅行引率であった。途中、ある生徒から「先生も引率が大変ですね。」などと優しい言葉をかけてもらったが、「生徒のみなさんと過ごすのは、大変というよりも楽しいですよ。」と答えた。この5日間で顔と名前が一致した生徒の数が大幅に増えたことも嬉しいことだ。寝食を共にして集団で旅行をすることでお互いに理解しあえたり、新たな一面を発見したり、修学旅行ならではの5日間であった。生徒たちの胸にたくさん楽しかった思い出と学びがあふれんばかりに詰まっていることを願わずにはられない。

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)